



吉田河岸と水防団



江戸期から明治期にかけて、運輸の主流は船を使った輸送であり、河川沿いには荷揚げや積出しを行うための河岸がいくつもつくられました。下野市内を流れる川沿いにも、物流の拠点となる河岸があり、大量の米や薪炭などを輸送するために大勢の人が働いていました。鬼怒川沿いの河岸で荷揚げされた物資は、そのまま鬼怒川を下り利根川を遡上して江戸まで運ぶよりも、陸路で思川の河岸まで運び、船に積み替えて江戸川を下るほうが、安価で早く江戸へ荷を届けることができたそうです。

そんな物資輸送の要であった河川ですが、昭和30年代まではしばしば氾濫することがありました。川の近くの家では、家の周りに土塁（土でできた堤防）を設置するなどの自己防衛策をとり、過去に水害に遭った薬師寺地区や吉田地区では、河川沿いに自主防災組織である水防団が組織されました。水防団は地域の人たちで構成され、大水の時には河川を徹夜で監視し、堤防が決壊した時には半鐘を鳴らして住民に危険を知らせたり、水害が発生し水が引いたあとの消毒作業なども行っていたそうです。当時は、今以上につながりや互助がないと生活が大変な時代であり、地区の人たちの団結は強固なものでした。



吉田河岸の焼印
(田口孝之氏所有)

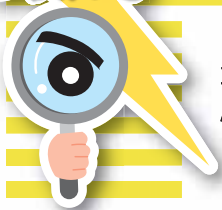
今回のお話は本吉田にお住いの元教員、田口孝之さんに伺いました。田口家は明治初期まで吉田河岸の仕事をしていました。



田口さんは川柳を詠むのが好きなんだからって!



地域の目



下野市役所には、災害時に緊急放送を行うための設備があり、コミュニティFM放送「FM ゆうがお」を活用して、市民のみなさんに災害や防災の情報をお届けします。



災害時には市役所内の設備から避難情報や災害情報をお知らせするよ! Byしもびい

下野市防災ラジオはこの「FM ゆうがお」の電波を利用して自動で起動し、災害時の緊急放送などをお知らせします。毎月第3木曜日の正午には防災ラジオ自動起動の試験放送を実施しています。



普段はこのスタジオ（祇園一丁目）から「FMゆうがお」を放送してるよ。Byしもびい



つながッテルね! 条例30条

（危機管理） 一部抜粋

第30条 市は、市民の生命及び財産を守るために、災害等の緊急時を想定した危機管理体制の構築に努めなければならない。